

平成26年度 第4回花見川区地域福祉計画推進協議会議事要旨

日 時 平成27年3月12日(木) 午前10時～午後12時05分

場 所 花見川保健福祉センター3階大会議室

出席委員数 20名

欠席委員数 6名

オブザーバー 1名

事務局 11名

【1】次第

1 開会

- #### 2 議題
- (1) 第2期花見川区地域福祉計画の推進状況について
 - (2) 支え合いのまち千葉推進計画（第3期千葉市地域福祉計画）（案）パブリックコメント手続の結果について
 - (3) 第2期花見川区地域福祉計画の振り返り（意見交換）～担い手不足と人材育成の問題について 他
 - (4) 花見川区地域福祉計画推進協議会の名称変更について
 - (5) その他

3 閉会

【2】議事要旨

議題（1）第2期花見川区地域福祉計画の推進状況について

事務局より、資料1「取り組み項目地区別一覧表（平成27年3月12日現在）」をもとに報告。新たに追加となった取組みは無く、来年度は、第3期計画の取組項目に合わせて一覧表を修正する旨を説明した。

<質疑応答>

委員 長：第2期の推進状況について、事務局はどう捉えているか。

事務局：取組内容に地域差が生じていると思う。担い手不足もあり難しい問題だが、第3期計画に向けた検討課題にしたい。

オブザーバー：こうした地域でのインフォーマルなサービス、地域での集まりなどの情報をあんしんケアセンターに相談に来た方に伝えたい。より具体的な内容がわかる一覧表やマップなどがあると良い。

委員 長：一覧表に記載されている取組内容の詳細を全て資料として出すのは、労力的に難しいのではないか。地区部会に聞いてもらえば内容は分かると思う。

副委員 長：社協の事務局で、開催日などを入れた一覧表を作成してはどうか。

委員 員：ケアマネジャーは、地域でどのような活動が行われているか把握していないことが多い。ケアマネジャーの集いの場で、計画や取組内容などについて事務局から説明してもらいたい。

副委員 長：自治会の掲示板で日時と場所を案内していることが多いので、見てもらうと良いのでは。

委員 員：一覧表は、項目を載せているだけで内容が分からない。項目の発表だけでなく少しくらい内容説明があった方が良いと思う。

委員 長：具体的な活動内容については、これまで交代で発表してきた。詳しい内容が必要であれば、事務局に問い合わせたい。

議題（2）支え合いのまち千葉推進計画（第3期千葉市地域福祉計画）（案）パブリックコメント手続の結果について

事務局より、資料2「支え合いのまち千葉推進計画（第3期千葉市地域福祉計画）（案）パブリックコメント手続の結果について」をもとに、意見等を報告。

<質疑応答>

- 委員：支える立場の方が関心を持っていない。パブリックコメントも、もっと広くアピールすべき。発信するための何か良い方法がないか、議論が必要ではないか。
- 委員：パブリックコメントについて、説明会は開催していないのか。
- 委員長：市民説明会は11月8日に開催したが、参加者は非常に少なかった。
- 委員：もっとPRして、多くの方に参加してもらえると良い。
- 委員長：発信するにはどうしたら良いかとのことだが、地区部会では、全ての町内自治会に説明するなど、色々取り組んでいる。
- 委員：地区部会が発信しても、実際に皆知っているかどうかは分からない。また、社協にボランティアを依頼する場合、申し込んでから募集して、実際に人が見つかるのは1、2か月先である。それでは間に合わないので、ボランティアをもっと積極的に集めて欲しい。
- 副委員長：第2期計画では、区から出前講座に来てもらったが、第3期計画でも予定はあるのか。
- 事務局：出前講座は、第3期計画についても積極的に行う予定である。ただ、活動の個別具体的な内容の説明までは難しいので、ご了承いただきたい。
- 事務局：社協としては、ボランティアはあくまで自発的なものと考えている。ボランティアを希望する方に情報提供し、自発的に活動していただくという形をとっているため、どうしても時間はかかる。
- 委員長：先ほど、発信内容が伝わっていないとの話があったが、地区部会では、それぞれ総会や役員会などで活動内容や予算の説明を行い、広報紙も発行している。地道に取り組んでいることは認識していただきたい。パブリックコメントの意見についてだが、市の考え方は計画自体が確定してからの公表になるのか。
- 事務局：計画が正式に決定したタイミングで、意見に対する市の考え方を発表する予定である。
- 委員長：認知症対策が計画に十分反映されていないのでは、との意見であるが、市はどのように考えているのか。高齢者保健福祉推進計画には地域包括ケア、認知症対策が出てくるが、それが地域福祉計画に反映されているのかどうか。
- 事務局：認知症対策については、次期の高齢者保健福祉推進計画で地域包括ケアシステムの構築強化が重点項目として位置づけられており、「認知症ケアパスの作成」「認知症初期集中チーム」等、新規事業を実施する。地域包括ケアシステム構築には、共助の取組みの強化が一つの大きな柱になっており、地域福祉計画と重なる部分もあるため、こうした事業も地域福祉計画で取り上げている。計画の重なる部分については、連携して施策推進したいと考えている。
- 委員長：公助はそうだが、共助の部分、地域で取り組む部分では、認知症対策がほとんど出てこない。我々は、地域福祉計画だけ取り組めば良いのか、それとも地域福祉計画とは別に、高齢者保健福祉推進計画の方で認知症対策に取り組まなければならないのか。
- 事務局：地域福祉計画は、地域の様々な課題に対して地域の皆さんが取り組むものであり、担い手が不足している中での認知症対策となると、そう積極的に取り上げられる課題ではないだろうと考えている。地域で取り組むことができるのであれば、考えていただけた方が良いと思う。
- 委員長：認知症の方がいる家庭では、認知症本人だけでなく、介護する家族へのサポートも必要になる。その辺り、地域が何もしなくていいのかと思う。
- 委員：認知症対策については、国家戦略として新オレンジプランが策定されている。

市では、地域包括ケアシステムを構築強化することだが、認知症対策は、推進協議会でも取り上げていくべき課題だと思う。

- 委員 長：そのとおりだが、地域福祉計画に認知症対策はほとんど入っていない。
- 委員 員：支え合いや助け合いなど、関連した項目は多く入っているのでは。
- 委員 長：広い意味では支え合いに入るかもしれないが、非常に曖昧であると思う。
- 委員 員：認知症サポーターという制度があるが、市は取り組んでいるのか。どのくらいの規模で、サポーターは何人いるのか。
- 事務局 長：認知症サポーターについては、市で養成講座を行っている。人数等は、確認した後で報告する。
- 委員 員：認知症サポーター養成講座は、講師になるための研修を修了した人、キャラバンメイトが講座を開催するという形になる。当あんしんケアセンターの場合、銀行やコンビニ等から依頼を受け開催している。認知症サポーターは、認知症の方を実際に助ける方というよりは、認知症について正しい知識をもって見守る、認知症についてしっかり理解している方である。皆さんの地域でも必要であれば、高齢福祉課に依頼すれば開催は可能である。
- 委員 員：新オレンジプランでは、認知症サポーターの目標を全国で800万人としている。私はキャラバンメイトとして講師を務めているが、主に自治会からの開催要望が多くなっている。
- 委員 員：推進協議会の委員も、ぜひ受講した方が良い。
- 委員 長：地域で認知症サポーターを増やしたいので、地区部会あるいは自治会で認知症サポーター養成講座を開催するなど、協力をお願いしたい。

議題（3）第2期花見川区地域福祉計画の振り返り（意見交換）～担い手不足と人材育成の問題について 他

<質疑応答>

- 委員 長：高齢化の進展で、高齢者が高齢者の面倒をみるような状況である。若い方に参加してもらいたいが、何か人材育成の具体的な良い方法があれば。
- 委員 員：団塊の世代が退職して、時間のある方は旅行とかゴルフをやっている。そういう方にヘルパーの勉強を勧めても抵抗があると思うので、まずはケアサポーターのような形で、例えば認知症の方の傾聴や遊び相手などをやっていただけたらと思っている。
- 委員 長：団塊の世代に、どうやって参加してもらうのか。
- 委員 員：脳トレとか男性向け料理教室には人が集まる。そういった中に、ケアサポーターの勉強会を入れたら良いと思う。
- 委員 員：私は自治会と地区部会の両方の会長を務めているが、地区部会から皆さんに何かお願いするとなると実際に動くのは自治会である。いま提案されたような簡単なことでは人は集まらない。例えば「大賀ハスのふるさとの会」では、ボランティアで水草取りなどのハスの世話をしている。作業自体は何も面白くはないが、綺麗に花が咲き、大賀ハスを守っているという誇りと喜びがある。何かそういったものが感じられないと、皆出てこない。実際に人を集める立場に立って考えていただければ。
- 委員 員：担い手が、担い手自身のこととして関心が持てるような内容、例えば災害対策とか認知症対策といった内容であれば、少しは関心を持つのではないか。
- 委員 員：それもなかなか難しい。何らかのきっかけづくりが上手くいけば良いが。地域での支え合いなど、私たちが取り組まなければならない課題は沢山あるが、活動のベースは全て自治会である。皆が自治会に加入して、下から自然に支え合いの話が出て、それが活動として広がるのが一番良いのだが、そこが一番の問題

- 題でもある。社協の会員もなかなか増えない。
- 委員 員：自治会は苦勞されていると思うが、地区部会や社協の方でサポートはできないのか。
- 委員 員長：それは既に行っている。自治会や地区部会の役員、リーダーになる人がいない、そういう人をどうやって発掘し育てるのか。例えば、趣味の会やサークルを色々作って、その中からリーダーになれそうな人を自治会活動に引き入れるとか、何か具体的な方法を考えないといけない。
- 委員 員：団塊の世代は、自分の孫には関心があるので、孫が通う学校を利用することは考えられないか。
- 委員 員長：それも必要かも知れないが、それでは間に合わない。
- 委員 員：以前、千葉市ことぶき大学校と千葉県生涯大学校に通っていたが、非常にやる気のある団塊の世代が大勢いて、ボランティアとかNPO立ち上げとか色々やっている。仲間づくりで参加する人が多いが、中には地域で活動しようという人もいるので、そこを活用したらどうかと思う。
- 委員 員：私は、ことぶき大学校で地域活動実践講座の講師を務めている。皆さん非常に熱心に聞いてくれるが、その後の成果は分からない。
- 副委員 員長：ことぶき大学校の生徒は何人くらいいるのか。
- 委員 員：1クラス30人、全部で90人程度いると思う。1年で卒業する。
- 副委員 員長：その人たちの何割かでもボランティアに入ってきてもらえれば良いが。
- 委員 員長：実際に、地域の活動に参加しそうな人はいるのか。
- 委員 員：自分と同じ地区の方がいて、後で話に来てくれたことはあった。講座では、主に自治会活動について話している。自治会で割り当てられた仕事だけやっているとダメだと、自治会をこうしたい、その方向に引っ張って行くのだ、と申し上げている。自治会役員も1年やって終わりではなく、ぜひ続けるようお願いしている。
- 委員 員長：花見川区は特に高齢化が進み、高齢化率が40%を超えている地区もある。花見川区は6区で唯一、消滅可能性のある都市に挙げられているが、何か対策を取らないと本当に消えてしまう。
- 委員 員：先ほどケアサポーターの話が出たが、男性は介護の実務はやりにくい部分がある。男性の場合、例えば市民後見人として一生の面倒を見るなど、そういう分野の方がより活躍できるのではないかと思う。学校で勉強する、サークルに入るといのは、自分は楽しいかも知れないが、人の役に立つとは限らない。誰かの役に立つ人をどう集めるのか。ボランティアは、全くの無償だと長続きしないので、1日300円でも日当が出れば、かなり違うと思う。
- 委員 員長：何をやっても無償、というのは非常に問題がある。活動の立ち上げ時には市から補助が出ても、実際に活動している人に対して補助が出る制度というのは、ほとんどない状況である。
- 副委員 員長：介護支援ボランティアのポイント制度と連携したらどうか。
- 委員 員：シニア層の社会参加が重要である。市が平成25年7月から実施している介護支援サポーター制度は、65歳以上の市民が1日研修を受けて手帳をもらい、介護施設で傾聴などの手伝いをするとスタンプが押印され、年間10ポイント以上集まると1ポイント100円で介護保険料等に充当できる制度。私は色々な方に勧めているが、実利が伴うので、みんな喜んで活動している。社会参加の意識が芽生え、自治会活動などに入っていききっかけにもなるのではないか。自治会でも推奨してもらえれば、効果はあると思う。
- 委員 員：現状から言うと、まず自治会の役員のみならず手を確保しなければならず、それに加えて、社協、スポーツ振興会、民生委員と、人の確保で精一杯である。教室

とか色々意見が出ているが、ただポスターを貼っただけでは人は集まらないし、誰かやる人が必要だが、やる人がいないという状況。残念ながら、そういう現状だということ認識しなくてはならない。

- 委員 長：そのとおりである。とにかく人がいない、その問題で苦勞している。実際、自治会でも活動できないところが出てきている。
- 委員：自治会活動についてだが、町会長や役員の目的意識に曖昧な部分があって、それが担い手発掘の大きな障害になっていることがある。自治会の目的は親睦だ、と言う町会長が何人もいるが、私はそうではないと思う。自治会の目的はもっと崇高なもの、地域を活性化すとか、安全安心を守るとか、そういった本来の目的を達成するための手段が親睦活動である。親睦が目的になっているために、例えば福祉活動推進員の推薦をお願いしても、町会長の協力が得られないことが多々ある。地域全体のために自分の町会も協力する、人材を出すという気持ちを持って欲しい。
- 委員 長：自治会の活動には、ある程度の事務処理能力がある方でないといけない。とにかくサークルを沢山作って、その中からリーダーに適した人に自治会活動に入ってもらおう。人を確保するためのサークルである。
- 委員：小さな町会で何かやろうとしても人手がなく、1つの町会単独で行事をやるのは難しい状況。近隣の町会が協力しあい、隣の町会が行事をやる時は別の町会が協力する、というやり方を模索している地域もある。
- 委員 長：複数の自治会が合同開催する方法もあるが、リーダーの負担が重くなるという問題もある。もう一つ、自治会の役員を辞めた人をつなぎとめておくことも必要。役員は辞めても、大きな行事の時だけは応援してもらおうとか。
- 委員：合同で開催する場合、実行委員長から町会長に対する指示の出し方が気に入らないと機嫌を損ねる人もいる。町会に協力を求める時は丁寧にすべき。
- 委員 長：大きな行事の場合は事務局を置いて、事務局から指示を出すという方法もある。
- 委員：地域の介護、医療をどう支えるか、サポートするかが問題になっている。ケアマネジャーは介護保険の中での動きになるので、地域の実情を把握している民生委員と密に連携が取れると良い。
- 委員 長：民生委員は、自治会とも連携してもらわないと困る。
- 委員：自分の地区の民生委員は全員、地区部会の理事になっており、様々な行事に参加している。また、あんしんケアセンター、ケアマネジャーとは、日頃から横の連携を取るようにしているが、お互いに忙しく、もう少し時間をとって話し合えたら良いと思っている。先ほどボランティアの話が出たが、自治会の方には、例えば朝のゴミ出しができない方への支援など、ちょっとした手伝いをしていただくと大変助かる。自治会と民生委員との横のつながりは非常に重要である。
- 委員 長：地域の見守りや敬老会など、民生委員に協力してもらいたい。
- 委員：自分の地区でも、民生委員は全員が地区部会に参加し、町会にもできるだけ役員として関わるようするなど、民生委員同士が地域の情報を共有できるようにしている。また、民生委員の半数以上が認知症サポーター養成講座を受講している。担い手についてだが、民生委員協力員制度がある。花見川区はまだ9人だが、協力員は、民生委員の職務の補助だけでなく、後継者の育成という意味合いが強い。これはボランティアの育成につながるので、ぜひ協力員を増やしたいと考えている。そのためにも町会の協力が必要だが、町会の活性化のための何か方策を考えてもらいたい。例えば、避難所運営委員会。町会以外の人も避難所に受け入れることになっているが、その町に住む方々を優先にすとか、町会で広報すれば会員増加につながるかもしれない。

委員長：この問題については、すぐに結論が出るものではない。来年度も継続して話し合うべき問題だと思っている。今後も、少しでも可能性のある方法を考えていきたい。

議題（４）花見川区地域福祉計画推進協議会の名称変更について

事務局より、資料４「花見川区地域福祉計画推進協議会の名称変更」をもとに説明。

<質疑応答>

委員長：計画名を「支え合いのまち」に変える理由は何か。

事務局：「福祉」というと、どうしても行政主導というイメージが強いため、名称変更になったと聞いている。

議題（５）その他

事務局より、認知症サポーター養成講座について報告。平成２５年度末時点で、講座開催数が累計４５８回、受講者数が累計１万８３３０人。平成２６年度は、１１月末時点で年間約１７０回、受講者数が累計で約２万３千人である旨、説明があった。

また事務局より、平成２７年度の推進協議会委員の選任について説明があった。

(議事終了)

事務局より、今回が本年度最後の推進協であることが伝えられ、原田委員長、天春副委員長から挨拶があり、午後１２時０５分、花見川区地域福祉計画推進協議会は閉会した。